

「人生の転機」

近藤 克幸

こんにちは、昨春秋に衣川に参りました。

原稿作成依頼が回ってきたものの大して趣味もないのでざっくばらんに人生の転機を書いてみます。



私の最初の転機は言うまでもなく医学部を目指したときで、次は心臓外科を選んだとき。

診療科選びは医師の人生にとって一大事。

ハードな仕事に見えましたが、一番やりたいと思った同科を選びました。

次の転機は 29 歳で医療情報の仕事を手がけたとき。外科の仕事と両立できるか気になりましたが、システム作りにも興味があり、夜の時間を削って両方やりました。

30 代で頸椎を痛めて入院。外科医の頃はわりと器用に手術をこなしていたので、自分自身が入院して手術を離れるのはとても辛かったものの、以後は患者さんを診ながら国内初のシステムをいくつも作り、面白い仕事がたくさんできました。

医療情報の仕事もしてなかったら頸椎を痛めた後はどうなっていたのかなあ と思うことがあります。興味のある仕事を手がけていて、結果オーライでした。

昨年、大学を辞めて衣川にきました。医学部を目指した頃は地域医療志向だったので最初に戻った感じです。

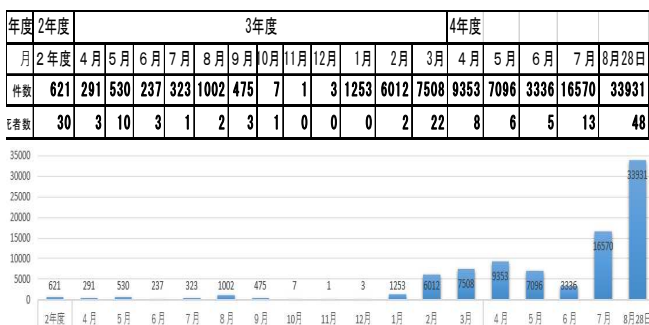
今までどの転機でもやりたいことを選んで正解だったと思います。だからきっと人生の締めくくりに良い選択になると思っています。

学生・研修医のみなさんはこれからが大きな転機です。人生をかける診療科を選ぶのは大変です。選ぶ基準もたくさんあります。でもやっぱり一番興味の湧いた、一番やりたい事をする。これに尽きます。

なお、唯一の趣味はドライブですが、とんでもない長距離を走るのみなさんの参考になりません。いつか機会があればご紹介させていただきます。(衣川診療所副所長)

岩手県内の新型コロナウイルス感染の状況

8 月 28 日現在の新規感染者数は 33,931 人、累計で 88,548 人です。7 月に月間感染者数がはじめて 1 万人を超えたと思ったら、8 月は更に倍増し 3 万人を超えました。連日千人を超える日が続き、8 月 21 日には 2,017 人/日記録しました。比較的軽傷者が多いとはいえ、死亡者数は 48 人増えて累計で 157 人となりました。



県内年代別感染者の令和 3. 8 月、令和 4. 4 月、8 月 28 日比較

第 5 波 R3. 8 月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計	症状無	比率
	67	147	228	170	168	110	61	32	14	5	1002	137	14%
年代別	214人21%			676人67%			112人11%						
第 6 波 R4. 4 月	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計	症状無	比率
	2013	1708	1146	1548	1351	707	428	207	166	79	9353	488	5%
年代別	3721人40%			4752人51%			880人9%						
第 7 波 R4. 8/28	10未	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90以上	合計	症状無	比率
	5038	3942	4678	5273	5037	3681	2801	1740	1166	575	33931	611	2%
年代別	8980人26%			18669人55%			6282人19%						

大谷翔平選手の成績ボード (R4. 8. 29 現在)

打者 打率 265 本塁打 28 打点 77 盗塁 11

投手 勝利 11 敗戦 8 防御率 2.67 奪三振 176

8 月 9 日 (10 日) 1918 年ペーブルース『13 勝 & 11 本』以来 104 年ぶりに M L B で『2 桁勝利 & 2 桁本塁打』の偉業を達成した。大谷選手はこれまで『10 勝 & 27 本』。

8 月 9 日 (10 日) 今シーズン 25 号本塁打を打ち、M L B 日本人通算第 2 位を記録した。(1 位は松井選手)

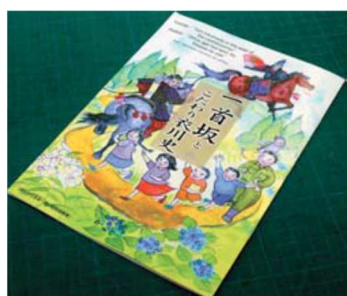
『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和4年 8 月 29 日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局 H P にバックナンバーを掲載しています。



写真左：義家と貞任が、歌を詠みあったと伝えられている一首坂。義家（左手前）と貞任（中央奥）を示す岩が置かれている。
写真右：衣川中の生徒ら多くの住民ボランティアが参加して整備された遊歩道。地区住民の思いが込められている。

一首坂の地名は、中世の前九年の合戦に由来します。坂と言っても現在は木々が茂る山の尾根ですが、当時この場所で敵味方に分かれた 2 人の武将が、歌を詠みあったことから伝えられています。

11 世紀半ばの前九年の合戦は、中央政府から派遣された源野頼義・義家父子が、衣川を本拠とした豪族・安倍氏を滅ぼした戦いといわれています。安倍氏は、10 世紀中ごろから奥六郡（現在の衣川から盛岡までに置かれた 6 つの郡の総称）の郡司としてこの地を治めます。やがて、中央の出先機関である胆沢鎮守府をも支配するほどになりますが、この合戦で頼義父子と出羽の清原氏連合軍に敗れます。



さて、そこでこの坂が歴史の舞台に登場します。衣川で敗れた安倍軍総大将
あべさだとう くりやがわのさく
の安倍貞任は、厨川柵で態勢を立て直そうと、馬に乗って坂を駆け上がり
ます。そこを義家が追ひ、馬上から弓を構えつつ「衣の館はほころびにけり」
と歌を詠み掛けました。貞任はすぐに馬のくつわを返し「年を経し糸の乱れの
苦しさに」と上の句を継ぎました。義家は、負け戦でも平静を失わない貞任
に感じ入り、見逃したといわれています。

写真左：『一首坂とこだわりの衣川史』（A5判7頁）は、衣川地区振興会が制作した冊子

安倍氏の血は、後の奥州藤原氏につながっていきますが、この一首坂の歴史も今、地域の人たちによって受け継がれようとしています。衣川地区振興会（佐藤利男会長）が中心となり、会員、中学生らがボランティアで遊歩道を整備。今後歴史教育の場としての活用も計画されています。平泉の前史を飾る武将たちが躍動した舞台を、ゆっくりと散策してみませんか。

◇問い合わせ＝衣川地区センター（☎0197-52-3426）へ

